

手塚泰彦・渡辺義人・林 秀剛・相崎守弘・丸山 正
(1973): 霞ヶ浦の水質と細菌の分布および一次生産
(建設省・水資源開発公団)、171-191

徳永隆司・北 喜代志・北 直子・森本昌宏(1978): ホ
テアオイの成長と無機栄養素の貯蔵、日本水処理
生物誌、14、1-8

半田 彦・山本満寿夫・窪田衛二(1973): 諏訪湖におけ
る栄養塩および有機物収支に関する研究、JIBP-

PF 諏訪湖生物群集の生産力に関する研究経過報告、
第5号、10-19

藤井茂美(1973): 大形水生植物の物質生産(児島湖)、
日本陸水群集の生産力に関する研究(JIBP=PF
業績)、226-229

宝月欣二・北沢右三・倉沢秀夫・白石芳一・市村俊英
(1952): 内水面の生産及び物質循環に関する基礎的研
究、水産研究会報、4、41-127

○文献リスト<1984-(2)>

浅井康宏. 日本でふえている水生の帰化植物. 採と
飼 46: 289-293.

石井 猛・浜田誠司・倉石浩誠. ホテアオイのエン
ルギー変換(メタンガス)その他の利用につい
て. ホテアオイ研Newsletter No. 4 :
3-5.

大隅光善・千蔵昭二. 筑後川下流域のクリーク雑草
「チクゴスズメノヒエ」の生態と防除 第4報
種子繁殖に関する調査. 雑草研究 29: 45-
50.

大滝末男. 私の好きな植物—アサザ— 植物と自然
18(6): 31

沖 陽子・中川恭二郎. 温度要因がホテアオイの生
育及び繁殖に及ぼす影響. 雑草研究 29: 25
-32

片桐義昭. ムジナモの花芽形成要因. 食虫植物研会
誌 35: 110-111.

角野康郎. 水草を撮る. 植物と自然 18(7): 29-
31.

草薙得一. ウリカワの生態と防除. 雑草研究 29:
11-24.

酒匂靖夫. 溪流に住む珍しい植物ウスカワゴロモーそ
の生活記録— 植物と自然 18(9): 23-26.

竹下 信. 武庫川・猪名川両水系に棲息する沈水性水
草の生態分布—非生物環境要因による棲み分け
を中心にして— 伊丹の自然 1: 3-21.

陳 玉麟. 台湾におけるホテアオイ. ホテアオイ
研Newsletter No.4: 1-2.

外山雅寛. 静狩湿原にムラサキミミカキグサを確認.
食虫植物研会誌 35: 101-103.

———. 知床半島よりタヌキモの新分布記録.

同上 35: 103-108.

永井かな. 琵琶湖におけるホテアオイの分布につい
て. ホテアオイ研 Newsletter No.4: 8.

那須孝悌・松江実千代. アマモの花粉. Nature
Study 30: 87-91.

浜島繁隆. 日本に自生する水生植物. 採と飼 46:
284-288.

湯浅 明. デンジソウの生活史. 植物と自然 18(8)
: 25-30.

湯浅浩司. 食用にしている水生植物. 採と飼 46:
294-296.

Ito, M. Studies in the floral morphology and
anatomy of the Nymphaeales. II. Floral
anatomy of *Nymphaea tetragona* George.
Acta Phytotax. Geobot. 35: 94-102.

Kadono, Y. Comparative ecology of Japanese
Potamogeton: an extensive survey with
special reference to growth form and life
cycle. Jap. J. Ecol. 34: 161-172.

Kunii, H. Seasonal growth and profile struc-
ture development of *Elodea nuttallii* (Planch.)
St. John in Pond Ojaga-ike, Jap-
an. Aquat. Bot. 18: 239-247.

———. Effects of light intensity on the grow-
th and buoyancy of detached *Elodea nutta-
llii* (Planch.) St. John during winter.
Bot. Mag. Tokyo 97: 287-295.

Satake, K. & K. Miyasaka. Evidence of high
mercury accumulation in the cell wall of the
liverwort *Jungermannia vulcanicola* Steph.

(31頁右下につづく)

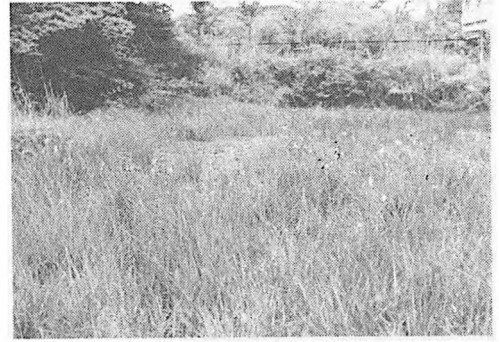


写真3・4 サギスゲの自生地

残念でありませんが、このようにしなければ、生育環境の変化や絶滅から守れない現状を見ると悲しくなっていますが、ある反面、安全とはいえないまでも、安心できます。牧野新日本植物図鑑(1977)のサギスゲの説明に、神戸六甲山とあるのはここイモリ谷のことと思います。また、紅谷進二編『兵庫県植物目録』(六月社書房、1971)によれば、“六甲山奥池(絶滅種)”となっています。花期は、6月上中旬で、この頃この池を訪ずれると、

てんてんと輝き、あたかも真白いサギが遊んでいるように見えます。他に、カキラン、モウセンゴケ、トキソウ、フトヒルムシロ、ヒツジグサ、ミズギボウシ、サワシロギク、ショウジョウバカマ、サワアザミ、アリノトウグサが自生し、湿原の妖精ハッチョウトンボが生息しています。これから、この小さな小さな池に自生する宝石のように光り輝くサギスゲが、理解ある人々によっていつまでも守られていくことを願っています。

野尻湖の水草 —1980年—

角野康郎

ソウギョの放流によって野尻湖の水生植物が壊滅した事情は、桜井先生の報文(27頁)に詳しいが、私は1980年7月28日に野尻湖を訪れ、水生植物の調査を行っている。この時期は、ソウギョが放流されて2年後、ようやくその除草効果が現われ始めた頃という。私は、ソウギョが放されているとはつゆも知らなかったが、どうやら壊滅直前の水生植物相を記録したことになったようだ。

その時点では、「湖底を見せぬほど」とまではゆかないが、かなりの量の水草が生育していた。優占していたのは、ヒルムシロとコカナダモである(棧橋付近)。コカナダモの侵入・繁茂が漁業に支障を与え、ソウギョ放流の原因になったのではないかと推察する。その他に、クロモ、ホザキノフサモ、セキシウモ、イトモの生育を確認した。

(20頁よりつづく)

to form particles of a mercury-sulphur compound. *J. Bryol.* 13: 101-105

———, H. Shimizu & M. Nishikawa. Elemental composition of the aquatic liverwort *Jungermannia vulcanicola* Steph. in acid streams. *Journ. Hattori Bot. Lab.* No.56: 241-248.

Shimoda, M. Macrophytic communities and their significance as indicators of water quality in two ponds in the Saijo basin, Hiroshima Prefecture, Japan. *Hikobia* 9: 1-14.

Yabe, K. & M. Numata. Ecological studies of the Mobarra-Yatsumi Marsh. Main physical and chemical factors controlling the marsh ecosystem. *Jap. J. Ecol.* 34: 173-186.

Yamasaki, S. Role of plant aeration in zonation of *Zizania latifolia* and *Pnragmites australis*. *Aquat. Bot.* 18: 287-297.

(次号につづく)